昭和17年5月1日（金）

晴れ。切手類千円近く請求。午後より受取りに行く。切手類は各種類共、本省より到着せる由に付き、本日の請求も従来品切れとして取扱いありし20、25、50等、各種網羅して請求せしもの。山海関行き通常為替を、外国為替として取扱いしものは返房越せり。客年十一月、野口さん取扱い雪構名義らしき貯金通帳に、四百円余の払い渡へりて詐取に罹りたるものの由、照会あり。退職の上、帰省の旨回答せり。

昭和17年5月2日（土）

曇り。葉書及び5銭印紙要求。程交付あり。此の朝まで甘諸頂く。三十日、歯茎膨れ上がりたれば、角野氏に電話かけて貰って、六時近く行く。誰も居らず。二十分余、夕飯時とて待つ。抜去の要ありと謂はる。

昭和17年5月3日（日）

朝来降雨。歯痛止まず。併し、堪え難き程にもあらねば、我慢して診て貰はざりし。報告物作成。

昭和17年5月4日（月）

曇り、次第に晴れ。ミワさん淳坊の為に着物を購入、六円余。明日、久子幼児愛護日に、北部小学校に来る際、立寄るとのこと。それまでに調達置く約なり。此夜、坊やを寝せるに容易に眠らず。

昭和17年5月5日（火）

晴れ。男子の節句。久子パン貰ひしもの、四つばかり持来る。零時少し過ぎ、悦子も来る。岩尾さん長兄茂氏、

4月9日ニューギニア戦線にて死去せしとの通知を受けた旨、姉の春子さんより為知あり。八幡の兄に電話することに依り、夫れと知り尋ぬ。泣きて春子氏よりの手紙を示す。午前中にて帰宅せしむ。前日、逓信局に電話して取寄せたる豆債券、本日午後到着。直に中印商会に持行かる。

昭和17年5月6日（水）

曇り、後5時頃より降雨。坊頃日、食事時脱糞、皆を騒がす。国債百円券九枚売残り。各方面、坊を負ふて売却に努力。全部売竭くさる。夜うどんを茹でらる。夏蜜柑、大なるは10銭を出づ。3つ程求め来らる。

昭和17年5月7日（木）

朝4時過ぎ雷鳴あり。降雨の間に切手代納付の為、中津局行き。午後、猶不歇。葉書5千持来る。道子より手紙。峯に預けたる荷物中、澄子の貯金通帳、道子の現金あり。受取り来る必要ありとて、上京の承認を得たしと申越す。夕方雨歇み、卵を調達に中殿へ坊を負ふて行かる。後、湯に行かる。気温冷ゆ。

昭和17年5月8日（金）

晴れ勝ちなるも、風強くして時々曇り。気温頓に降下し、恰も3月前後の候を思はしむ。印紙のみ請求。昨、竹竿一本10銭にて求め来られ、林のおっさんに、鋸にて火たたきに適當の長さに切断し貫ひ、縄にて火叩きの製作は、余之に当たる。

昭和17年5月9日（土）

晴れ。午前10時、豊田校に種痘に坊を連れ行かる。小月の増田傳平氏82、死去の電報あり。同氏は唐津特三時代の局長なり。数萬の金を蓄積したるも、養子の放蕩者を迎え全部没。子供は数人あるも全部女子。末子に養子したるもの。而して養子と云ふも、40代にて死亡したる由。午前中は猶寒かりしも、午後より次第に温かになる。但し室内は未だし。種痘は坊やも痛い見え、泣きたる由。

昭和17年5月10日（日）

晴れ。午前7時32分にて、小月の増田傳平氏遺族を見舞いに、ミワさん出発。坊を守りす。新聞を見たのみ。他の仕事は一向出来ざりし。午後6時の汽車にて到着さる。鶏卵11ヶ求め来らる。

昭和17年5月11日（月）

晴れ。電話にて照会、諒諾を得、5銭印紙二千を請求。10銭五百を兼ね。久子此日、福岡行きの筈にて、土産に蒲鋒を遣る為、数回製造元を訪はる。然るに久子来たらず。此の日、朝の間降雨。天気は次第に恢復せしも、斯かる事情で中止せしに非ずやとも思はる。悦子を連れ行くことになり居ると聞く。

昭和17年5月12日（火）

曇り。朝降雨。七時頃より歇みたる儘、夕方よりは晴れ気味となる。ミワさん別府公会堂にて開催の、貯金切手創始打合会に出席。鶴居局長と一緒に行きし由。耶馬溪線よりの局長連は、同線事故の為、結束せず次の列車

にて出発。豊後町長、一寸立寄らる。坊を守りの為、仕事出来ざりし。函場よりの請求多し。ミワさん7時の列車にて販らる。夕食を済まし、坊を連れ駅に行く。聞く処に依れば、逓信局長岸上閣下も午後出席の由。

昭和17年5月13日（水）

晴れ。久子来たらず。折角準備したる蒲鉾、腐敗の恐れあり。ミワさん北浦町に行かる。久子15日出発のことに運び居る由。此日以前は巖の仕事多忙にて、留守にすることできぬとのこと。夫れでは、土産物は小包にて送るより途なしとて、梱包して発送。余は道子宛てに葉書にて、16日坊を連れ販る旨認む。此日、松本ヨシ子さんより千人針届け下さる。事務室にて珈琲を薦む。

昭和17年5月14日（木）

晴れ。ミワさん鶴居村古城、安田某に国債売捌きの為、耶鉄にて出発。午前7時45分。販りは徒歩にて9時頃となる。百円三枚丈け捌けたり。一枚残りは、余立替え支出す。此夜巖来たり。1時間話す。仕事の手配悪くなり、9時より坊を寝かす。容易に眠らず。11時半に及ぶ。

昭和17年5月15日（金）

此日午後一時半より、区内無集配局は中津局の召集に応じ、局長室にて貯金切手や国債消化等に関する協議会に出席す。東吉富、如水出席。一つ松のみ欠席。五時半までかかる。坊や発熱、39度3分。頗る機嫌悪し。牛乳のみ飲み、飯は食はず。夜、鯛団子造らる。品質降下したるも、料理の方法に依りて旨しく頂かれたり。市役所へ坊やの種痘、感否検査に行き、赤紙貰ひ来らる。次い

で東吉富に麵を求めに行かる。目下中止の姿、明後日作ると云ふ。晴れ、朝の間冷ゆ。昨夜も甚だ冷えたり。販りに切手類持来せり。大内ナミ子貯金即時払いは、東吉富にても同様取扱いありと云ふ。

昭和17年5月16日（土）

晴れ。道子より速達葉書来る。今来て呉れても寝る場所がない。今暫く此の状態が続く限り、来るのを見合わせよと。どうせ昨夜、坊や熱発39度5、ミワさん安眠せず。吐く下すと云ふ有様。今朝元気がないこと夥し。電報にて一日遅れる旨、通知せしかと思ひ居る矢先とて、久子にも話し、出発せぬこととす。秀樹養育に付いて触れあり。此の点に関し久子には無効と思ひしも、事情を咄す。序でにワイシャツ附属品持販る様注意したり。ミワさん久子に菓子一円分、外に小遣い錢遣らる。駅まで送らる。

昭和17年5月17日（日）

曇天、9時頃より一時間程降雨。坊や発熱、下痢、嘔吐と再び腸を損なひしたらしく、清松医師に連れらる。二時間待つ。降雨の為、和傘持行く。依然腸が悪いと謂はれ、浣腸、ヒマシ油も吞まざる。午後3時まで絶対に食物を摂らすなど注意を受け、注射して貰って来らる。2時半林檎汁を与ふ。正午より寒くなる。4時頃便通あり。再来元気恢復の兆しあり。乳及び乳の粉のみにて過ごす。午後8時には乳やるつもり処、やらで済む。

昭和17年5月18日（月）

曇り。後、雨模様。夜に至って降雨。昨理髪に八時半頃行きしに、各店悉く戸を閉じ居る。後より聞くに、此日は

公休日に相当すと。仍って本日夕食後、日出町かまぼこ屋の向かい側の床屋にて、髪つみ貰ふ35。此の日、島沢酒屋若主人29にて死去。本日明照寺にて葬儀、ミワさん行かる。家主の後家さん、先頃より病氣。本日、林檎3円程見舞に持行かる。一ヶ15銭に相当す。清松医院に坊やの繻帯つけ換えに行き20銭かかる。昨は3円40銭。伊勢さん宅より人参莖を持来らる。煎り子やる。夕方寒くなり綿入れ着用す。

昭和17年5月19日（火）

雨。葉書豊浦より七千請求ありて、既に昨日より申込居りし為、八千中津局より請求。前後に吊り下げ持来る。豊浦には朝五千保管、全部を交付す。此日寒し。夕方近く雨歇み、風強し。夜火鉢に火を取り貰ふ。坊や漸く元気づくも、此日はお乳のみにて飯与えず。夜八時より床に入る。坊や宜く寝せしめず。七時過ぎより寝かす。

昭和17年5月20日（水）

昨夜、再び降雨。此朝、道路概ね乾き居たり。坊や夜半二時に起き上がり、床の間に上がり遊ぶ。一時間後、再び眠る。此朝岩尾さん麴、持来たり下さる。夕方甘酒作りに暇とる。坊や活発に活動す。夕飯、味付け久子等に賄ふつもり。久子遂に見えず。八時過ぎ、停車場に坊を連れ行かれたるも再び見えず。為替50銭欠損。朝風烈しく掃除するに、埃塵風に従い濛々。併し漸次天気は恢復、後快晴となる。坊やに林檎一ヶ瀘して遣る。

昭和17年5月21日（木）

快晴。坊や朝、糞便を漏らす。昨夜十時に与えし林檎汁

は、量に於いて、又時刻の遅れに於いて、何れも不適當なりしこと判明す。寝る前は成るべく飲食物は与えぬがよし。請求及び受領共、余行く。甘酒は局員一同に昼食時遣る。横田政恵さん嬢さん連れ来る。甘酒に菓子を馳走す。母堂、坊やの敷き布団を作成下さる。

昭和17年5月22日（金）

快晴。坊や早速敷き布団を汚す。大木将司氏より百円印紙4枚請求。十時半代金払込み。正午倉庫に居残り中、請取り販る。朝甘酒茶碗に一つ、牛乳一合、鶏卵黄身一ヶを半熟として与ふ。夕方早く、湯に坊を連行。二週間近く行かざりし。種痘殆ど癒着す。此日も午後より屢次（るじ）駅まで迎えに出掛けられしも、久子等の姿、遂に見えず。朝夕、余は甘酒を頂き飯を続けて頂く。保険料の還付金送付し来る。

昭和17年5月23日（土）

快晴。夏蜜柑、漸次市場より姿を没す。余の分、猶一ヶを存す。午前中、毛布敷布を、更に寝巻を陽に乾かす。午後より曇る。此日も午後より坊を連れ、駅まで屢々見へらる。遂に不来。宮前さんよりパン60、十二ヶ譲って貰ふ。夏蜜柑数ヶ求め来らる。何れの店を見るも、夏蜜柑の影淋し。克く売れるものかな。

昭和17年5月24日（日）

初めの間は曇り。事務服、白シャツ、ズボン共洗濯して貰ふ。午後より降雨となり、夜に入りて本物となる。公報に依る法規類の訂正に着手。満州小包料金改正に不注意、今日に至る色々。ズボン乾かず。正午近くまで乾し

て置く。切手請求準備。

昭和17年5月25日（月）

曇り、後晴れ勝ちとなる。ズボン皆乾く。朝、巖来局。久子不来を啣（かこ）つ。立場を考ふるときに同情したり。此の日も、久子の為に停車場に迎えに出らる。不相変、不来。横田政恵さん見ゆ。

昭和17年5月26日（火）

午前中薄雲、幾らか陽射しもあり。蚊帳乾かす。頃日、漸く蚊多くなり、蚊遣り香昨夜も薫らしたるも、経済上からも蚊帳を用ゆべく余儀なくされたり。午前十一時五十分頃、切手類受取りに行きたる頃たり、降雨し、夜に至るも歇まず。蚊帳吊る。坊や盛んに喋舌。満悦の場合、歓声を揚ぐ。日中流汗。此日珍しく朝の間に金券配達あり。午後切手を持来して分配す。頃日毎朝ミワさん神詣でさる。甘酒此の朝にて没有。黴が生えつつも、未だ酸味を生せず。甘味強く、殺菌の効ありしものの如し。

昭和17年5月27日（水）

此の朝、巖来たり色々苦説く。久子今だ帰らず。速達をやりたるも返事なしと云ふ。余より葉書にて澄子に照会す。納税水道料完納。抽籤にて等外として葉書七枚、市より贈呈あり。午後より降雨。切手類三百円にて制限に到着す。即ち三百円分請求せり。此の夜、蚊帳吊らず。蚊遣り香焚きたり。

昭和17年5月28日（木）

朝の間曇り、次第に晴れ。夕方快晴となる。久子、午後

零時半来着。智子連れ来る。中食を豚肉にて馳走し、二時頃帰る。四時頃、巖来たり。座敷にて色々と生活上の問題に付き苦説く。久子土産にパン蒸して持来る。之を夕食に頂き、御飯を廃す。切手類の代わりに収入印紙を請求す。

昭和17年5月29日（金）

葉書多数請求あり。一百枚要求、即時交付を乞ふ。十時出発。ミワさん現金払込みに行かる。受取にミワさんにも行って貰ふ。一万は持来すべく余りに過ぎたる観あり。二千持来して頂く。余は四千を前後に担ぐ。此日快晴。此葉書は豊浦五千五百、吉広五千五百の注文なりしが、請求に際して取消し来る。併し、概ね売竭くす見込みを以て、予定通り中津局へは請求したるもの。千分の十は割引減さる。此の夜、坊や兎角安眠せず。

昭和17年5月30日（土）

晴れ。此の夕、坊やの為に馬鈴薯及び人参を磨りやるつもり。然るに腹加減悪しく、便良しからず。牛乳のみにて済ます。一銭切手及び四銭切手売り切れ。何れも500枚づつ請求す。受取に坊やを連れ、ミワさんに行って貰ふ。坊や夜安眠せず。

昭和17年5月31日（日）

曇り。幾分陽射しあり。清松医かかり坊や連れ行かる。ヒマシ油及び注射され、午後三時まで絶食せしむ。土曜日、伊勢さん母堂見ゆ。求菩提山下に呉れた娘の出産に、手伝いに伊勢さんも連れ行くので、月曜日休むかも知れぬとあり。報告物の為に、終日営々仕事に携わる。

赤坊参加証、福日中津支局より来る。